

着物リサイクル 毎月25日号掲載

春夏秋冬

第200回 チーム着物2020

お陰様でこのコラムが200回の節目を迎える事が出来た。2000年9月号から16年8カ月の永きにわたりご指導、ご支援頂いたリサイクル通信の編集部の皆様方と読者の皆様様に心から感謝申し上げます。

お陰様でこのコラムが200回の節目を迎える事が出来た。2000年9月号から16年8カ月の永きにわたりご指導、ご支援頂いたリサイクル通信の編集部の皆様方と読者の皆様様に心から感謝申し上げます。

五輪に向け チーム設立

去る4月3日、渋谷の「一般財団法人国際文化きもの学会」にお



「チーム着物2020」キックオフミーティングの様子

ケジュール
8月、12月、来年4月の第一月曜日午後4時～9時
⑨今後5月からは順次東京オリピック組織委員会や東京都に具体的施策を提案⑩メンバー設立

①チーム名「チーム着物2020」②名譽顧問③国際文化きもの学会理事長・清水とき④チームリーダー⑤東京山喜・社長中村健一⑥サブリーダー⑦着物デザイナー⑧齋藤上太郎、イマジン・ワンワールド・代表理事高倉慶応、伊と幸・社長北川幸⑨事務局⑩国際文化きもの学会⑪事務局⑫日本きもの文化連絡協議会代表・渡辺琢仁⑬事務局次長⑭国際文化きもの学会・小尾妙子、東京山喜・曾根珠美⑮ミーティングス

参加国ごとにイメージした振袖制作など

着物が果たせる役割を検討&提案

趣旨に賛同する個人、企業、団体で組織する。

上記①～⑩が承認され、無事に「チーム着物2020」は設立した。

5つの

設立趣旨を説明

またキックオフミーティングでは、5つの設立趣旨を参加者に説明した。具体的には以下の通りである。

①東京オリピックを契機に日本文化と着物文化の素晴らしさを国内外に発信する②その実現に向け、着物にかかわる個人、企業、団体がチームを組織する③開会式から閉会式まで、全ステージで着物が果たせる具体的な施策を関係組織に提案し実現する④東京五輪を契機に文化プログラム「Beyond2020」に向け、着物市場の復興を実現する⑤日本へ帰属する時代をリードする。

関係組織に 施策を提案

又、この趣旨の補足として下記のような内容を述べた。

「着物の潜在需要は無尽蔵です。しかし、残念ながらその健全な潜在需要の多くは眠ったままで顕在化してい

ません。日本女性の着物に対する好意的感覚は着物市場が絶頂期にあった40年前に勝るとも劣らない状況ですが、着物の市場規模は往時の10数%程度に低迷を続けています。このトレンドを東京五輪を契機に転換し、着物の潜在需要を顕在化。

東京オリピックの主催者は東京都です。東京都オリピック準備局は大会ビジョンを「スポーツは世界と未来を変える力がある」とし、「史上最もインパクトで世界にポジティブな改革をもたらす大会とする」と宣言しています。又、国は丸川珠代氏をオリピック担当大臣に任命し、「大会を通じた新しい日本の創造」をスローガンに、復興五輪地域活性化の為のホストタウン事業の推進。そして何より日本文化の魅力発信を目指しています。

我々は東京都とそれを支える国が指し示すビジョンに添いながら着物にかかわる個人、企業、団体が志を一つにし、東京五輪の全ステージで着物が果たせる役割を検討する。そして、東京都・オリ

ピック組織委員会・JOC・JPC等の関係組織にチームとして働きかけて、一つでも多くの具体的施策を実現する事を目指したいと考えています。

そして東京五輪の成功がゴールではなく、その後の時代の潮流を我々着物にかかわるメンバーが、東京五輪をきっかけに着物文化と日本文化の素晴らしさを世界に発信する事で大きく変えて行きたいと願っています。その事が真の和装振興に繋がり、ひいては文明化する事の上位価値に文化が来ると言う大きなパラダイムチェンジをリードしてくれると思っています。

メダルの授与者に 友禅の振袖を

この後、参加者から次の様な具体的施策の提案があった。

①参加する約2000の国と地域をイメージした振袖を京友禅、加賀友禅、東京友禅で染上げる。そして開会式で入場行進の参加各国

のプラカードを持つ女性に着てもらう。②純国産の生糸で織り上げた五泉の駒組の白生地に着上げた友禅の振袖を、メダル授与式時にアシスタント女性に着てもらう。③参加する約2000の国と地域をイメージした東京染浴衣、又はハッピーポラントニアのコスチュームを準備する。④日本中の織物産地で夏素材の復刻と開発を推進し、日本選手団のチームごとのオリジナルユニフォームを作成。未来の着物を予感させる様なデザインで、盛夏の入場行進の大トリを涼やかに鮮やかに実現する。

これらの施策をより具体化し、出来る限り早期に「チーム着物2020」として関係組織に提案したい。そして一つでも多くの着物が貢献出来る具体化施策を実現させ、東京五輪をきっかけに真の和装振興を実現したいと願っているが、いかがだろうか。



東京山喜 (店名・たんす屋)

中村 健一 社長

1954年9月京都市生まれ。77年カリフォルニア州立大学ロングビーチ校留学。79年慶応義塾大学卒業。同年東京山喜入社。87年取締役京都支店長、91年常務、93年社長に就任、今に至る。